

平成 21 年 4 月 20 日

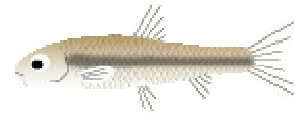
第 69 回定例会の案内

4 月 26 日(日) 午前 10:00 ~ 12:00 於 田主丸中学校

情報交換、

県との協働事業に向けた取組予定について

水路の魚類調査等



第 68 回定例会 3/29(日) 10:00 ~ 12:00 於 田主丸中学校

持参されたヒナモロコはマリンワールド(鈴木)500尾(内62尾を交換へ)、内水面研究所(西川、佐野)90尾、秋山50尾、高橋40尾、村上160尾、大石35尾でした。

県内水面研究所の佐野さんからヒナモロコの増殖試験について報告がありました。「研究所に持ち

込まれたヒナモロコの親魚は二週間すると定在する白点虫の寄生が見られたので、治療法をいろいろ試みられました。その結果メチレンブルー薬浴、メチレンブルー薬浴+昇温、マラカイトグリーンは効果(変化)がなく、0.5%食塩水+昇温は重篤なものには効果はなかったものの軽微なものには改善が見られ、淡水魚には少しきつい0.7%食塩水+昇温では軽微なものを中心に効果が見られ1.0%食塩水



+昇温(27℃)では重篤なものにも回復が見られたケースがあった。」結果、白点虫の寄生治療は0.7%食塩水(1ℓの水に食塩7g)+昇温(27℃)が適当なようです。また、産卵のコントロールができないかということで、産卵促進の試験についても報告がありました。自然下では5月~7月に産卵することから、日照、昇温、換水、低気圧接近などの条件で試験されています。結果はコイでは有効な日照条件による産卵促進は見られない、オイカワでは5~6℃で効果がある昇温の効果もなかった。換水(2/3程)による促進が見られ、雨の日の前日の換水でほぼ100%の効果が見られた。つまり低気圧接近前の効果が著しかったとのことでした。里親会でも以前から経験的に天気が崩れる前日の換水が効果的であることは分かっていたので、公的な機関で確認されたと言えます。また、人工産卵床についても報告がありました。これについては以前より会員の皆さんの取組報告をお願いしていますので、情報(結果)をもう少し集約したいと思います。



全員で記念撮影後、マリンワールドの分を桜の花咲く堤に放流しました、その後、東海大学の秋山氏がヒナモロコを採捕したという場所を探索しました。また、古川ではニッポンバラタナゴが採捕で

きました。



<写真左>秋山先生がヒナモロコを捕獲された場所は写真のように改修され当時の面影はないようです。

<右上>古川下流での調査状況。以前、村上さんがたくさんの稚魚を見たという場所です。今回は見つかりませんでした。



コウホネが繁殖している場所ではバラタナゴが捕獲できました。

同日 15:00 西郷地区保全活動

鐘ヶ江会長と大石が参加しました。写真のようにB水路のビオトープ部分にオウゴンセキショウを定植しました。これが、どのような効果をもたらすかは観察を続けていく必要があります。作業が終了した記念撮影しました。



訃 報

4月16日午後4時42分、山川英毅さんが脳内出血で永眠されました。享年68歳でした。みなさんご存知の通り、たいへん誠実な方でヒナモロコ里親会ははじめ、久留米の自然を守る会、日本野鳥の会など自然を守るボランティア活動を熱心に取り組まれていました。貴重な存在が失われたことは誠に残念で悲しみに耐えられませんが、生前の活躍に感謝を申し上げ、ここに哀悼の意を表すとともにご冥福をお祈りいたします。

合掌

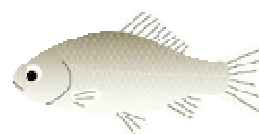
【事務局会 3/12(日) 17:00 あゆすにて】鐘ヶ江、村上、大石、三宅、中野、国武

次回 第70回定例会の予定

5月24日(日) 10:00~12:00 於 田主丸中学校

情報交換会

B水路(ヒナモロコ水路)調査、放流地を探る調査等



編集・発行 「ヒナモロコ里親会」(文責 大石敏)
〒839-1233 福岡県久留米市田主丸町田主丸 923-4